

卒業生によるボランティア活動グループ“わ”会報

## 情報ぎゃらりー

第21号

## 情報ギャラリー第21号

発行日 2003年2月21日  
 編集 グループ“わ”広報部  
 発行者 久保雅一  
 発行元 神戸市シルバーカレッジ  
 社会還元センターグループ“わ”  
 TEL(078)743-8101  
 FAX(078)743-8103

## どうなる、どうする これからの“わ” 3月上旬に説明会

グループ“わ”は昨年7月に創立5周年を迎えました。5年前に今の“わ”の発足を踏み切らせる大きな原動力となったのが、創立100周年を迎えた川崎重工業株式会社から神戸市に寄付された「高齢者の生き甲斐対策と福祉推進のための基金」1億円でした。この寄付金は(財)こうべ市民福祉振興協会に預託され、川重シルバー活動基金として運用され、その運用益が“わ”の活動を支える大きな基盤になっていました。しかし発足当初300名だった会員がいまは1000人に達するほどになり、また当初は十分と思われた基金の運用益も昨今の超低金利のもとではゼロに近い額にしかありません。さらに発足より“わ”の自立、育成のために行われたカレッジの援けも市財政の窮乏に伴って発足5年を契機に整理縮小されつつあります。

このような“わ”の財政基盤の変動傾向は平成14年度の初めにも予見されており、昨年5月の総会における久保代表の年度方針表明でも見直しが述べられました。そして緊急的な措置として、月例企画会議や運営会議の参加費(活動費)500円の支給を停止しました。会員のボランティア活動に対する活動費の廃止も検討されましたが、いきなりの廃止はさまざまな不都合があることが指摘され、これについては平成14年度は従来どおりの運用をしております。

財政的に外部に依存しない自立した運営が求められる平成15年度以降も継続して“わ”を維持していくためにはどうあるべきか、本年初頭より定例、臨時の運営委員会で検討

を重ねた結果、次の3つの大綱が採択されました：

1. 平成15年度より会費を徴収する、
2. 活動費は原則として全廃する、
3. ボランティア保険は“わ”で全員加入する。

1項は現行の“わ”の規約にも触れる事項で、最終決定は総会に俟たなければなりません。2項は従来の助成金の大きな使途費目でした。3項は財政緊縮には直接関係ないようには見えますが、これは従来カレッジ在校生ボランティアと一緒に付保されていましたが、今後はなくなります。会員の活動に漏れなく付保することは当然のこととして、保険は必要ということで基本方針に入れられました。当然“わ”の定常的な支出項目になります。

紙面では詳しいことを記す余地がありませんが、会費案、概算収支予想など詳しいことを会員の皆さまに説明する会を3月上旬に開く予定です。

### グループ“わ”のホームページ

私たちの活動・存在を広く知って頂くため、グループ“わ”のホームページを立ち上げようと模索していましたが、昨年暮れに(財)こうべ市民福祉振興協会(しあわせの村)がアクティブなシニアのためのやる気応援サイト「神戸シニアサイト」を作るに当たって“わ”と連動してはという提案があり、現在その線に沿って制作を進めております。まだ試作の段階ですが、現在できているページは

<http://www.wa-net.jp/sample/> でご覧になれます。

### NPOへの途(みち)

これまで2回にわたってNPO法人資格取得の作業をお伝えして参りました。申請に必要な書類の作成は認可の見通しが立った状況で中断されています。

これが初めてのグループ結成ならこのまま申請書類を提出して認可を待つということになるのですが、私たちは既に“わ”というグループを結成しており、会の規約も持っています。“わ”全体がNPO法人資格を取得するということは、形式的に今の“わ”を解散することになり、それには総会の議決が必要です。ところがNPOへの移行の有無に関わらず、“わ”そのものの存続に関わる財政上の問題が浮上してきたため、NPO法人資格取得作業は現在留保状態で止まっています。

追って皆さまには郵便でご案内することにしております。説明をお聞き頂いた上で、5月の総会で決議することになりますので、ご都合のつく限り説明会へおいでください。

サイトには会員作品コーナーを設け月替りでページを飾って行こうと考えております。

最初は絵画、写真、川柳からスタートします。これはと思う作品があれば事務局までお寄せください。

また4月から正式にスタートする予定ですが、広報部HP小グループを作って今後の運営に当たって行きたいと考えています。日本や世界に向けての発信で、やりがいのある仕事だと思います。ホームページに関心のある方は是非参加してください。ご希望の方は事務局(743-8101)か、[group-wa@portnet.ne.jp](mailto:group-wa@portnet.ne.jp) までご連絡ください。(広報部)

# 福祉部会

## 真愛ホームの感謝会に参加

生5-中 杉野 好一

今年度の標記ボランティア感謝会が1月26日(日)にあり、各ボランティアの方々や職員の方を含め総勢41名が参集して、四国阿波へ

の発展にも生涯を掛けた人である。

次にドイツ館に入ると床も階段もドイツ産の大理石で明るく輝いていた。第一次世界大戦に敗れた青島(中国山東半島)のドイツ兵捕虜5千人の内千人が1917~20年の3年間をここ坂東捕虜収容所で過ごした。その頃のドイツ兵の暮らしぶりや地元の人達との交流の様子を模型や人

形を巧みに使って楽しく分りやすく展示してあった。また、進んだドイツの技術や文化を俘虜を通じて受け入れて日常も「ドイツさん」の愛称で親しんだとのこと。この地が日本で最初にベートーヴェンの第九が全曲演奏されたところとは私は知らなかった。現在鳴門市とドイツリュネブルク市は姉妹都市であり、今も国際交流が続いている。

昼食は「阿波の里」(徳島県指定観光ステーション)の大正時代の雰囲気漂う本館で頂いた。食事を囲んで職員や各ボランティアの紹介もあり和気藹々のうちに相互の歓談と交歓は進んでいった。

帰路もバスは順調に走ってくれて予定より早く三宮に着き自由解散となった。今回は賀川豊彦の偉大な足跡を偲びつつもボランティアの原点を探るような思い出多き旅だったように私には思えた。



賀川豊彦記念館前、前列右から2人目が筆者

の小旅行を楽しんだ。グループ“わ”からは16人が加わり、私は初めての参加であった。

三宮を午前9時前にスタートした観光バスは僅か1時間30分余りで第一の目的地である徳島県の鳴門市に到着した。

駐車場を挟んで左側に昨年3月開館の賀川豊彦記念館、右側に階段があり、それを登ってゆくと1993年に建替えられた洋風の鳴門市ドイツ館があった。2班に分かれて約2時間近くかけて見学した。先ず豊彦館は木造2階建てで、新しい木の香りにつつまれていた。一般説明を受けた後、館内を見学した。鳴門の誇る賀川豊彦の生い立ちとキリスト教社会運動家としての生涯を通じての諸活動の有様が克明に展示されていた。彼の社会運動の実践家としての功績に感銘をうけた。同郷の大宅壮一は彼を近代日本のコンダクターと讃えていた。神戸とも縁が深く、神戸で生まれ、神戸神学校(現在の関学大の前身)で学び、神戸新川での布教活動や生活協同組合(灘生協に関連)

ドイツ館前



### ボランティア保険のお知らせ

ボランティア保険の有効期限が3月末で失効となります。15年度分の加入については会員の皆様方にご案内をしますが、継続される方は必ず申し込み期限までに、忘れずにお返事をくださるようお願いいたします。保険はボランティアを行う場合万一の事故の保証です。必ず加入してください。

(事務局)

# 環境部会

親子であつまれ  
自然あそび塾

園5-環 田波 久紀夫

紅葉の時期も過ぎた昨年11月30日(土)は、やや肌寒い日であったが、広報こうべの募集に応募した16家族(低学年小学生27名、大人16名)43名の参加者があり、にぎやかなイベントになった。

ドングリの勉強を創作紙芝居で行った後、テントキャンプ場までの約1.5kmを樹木や野鳥の観察指導とクイズをピオトープの会の方々为主体となってい、昼食のキャンプ場では銀の匙会(食文化5期生)の方々が温かいキノコ汁を作って待っていた。到着した子供達が一人ずつ、事前に用意した具のキノコを鍋に入れて、キノコ汁の出来上り。

また、観察の途中で採取したササでササ茶を作り、キャンプファイヤーを囲んで美味しく楽しい昼食であった。特にキノコ汁とササ茶は大好評で、アツという間に無くなった。

キャンプファイヤーでは焼イモも作ったが子供達は大喜びで、歓声をあげていた。

食後はドングリで動物やコマを作り、ドングリの歌を歌った。午後はピオトープの所まで戻り、ピオトープの会の方々に準備していただいた、根の出たドングリを全員がピオトープの周りに植え、屋外での行事

親子であつまれ  
ケフナ紙すき塾

生6-環 佐藤 昭三

ケフナ紙すきの塾を開催し、12組24名の親子が集まった。当日は午前中まず我々が子供さん向けに創作した「ケフナとはどんな植物か、どんな働きをするのか、どのように利用できるのか等」がわかる紙芝居を行い、ケフナを親子で知って貰ってから、ケフナ紙すき(1人当り

2、3枚の葉書作り)を行った。

午後は作ったケフナ葉書に好きな絵を書いて貰い、最後に作品や感想を自由に発表してもらった。親子の皆さんから「きょうはケフナの勉強もでき、親子での紙すきは大変よかった」と好評を得た。また本塾は我々シルバーエイジと、親子さんとの3世代のふれ合い場ができ、我々にとっても有意義な1日であり、楽しかった。来年も続けたいと考えている。



は無事終了した。

一日を振り返って、子供達の感想の主なものは

何か新しい事がわかりましたか?

しあわせの村にはこんなに多くの種類の樹木が植えてあるとは知ら

なかった。

ドングリのできる樹木がこんなにたくさんあることを知りました。

楽しかったことがありましたか?

ドングリを植えたこと、芽が出るのを楽しみに、またここに来ようと思った。

キノコ汁、焼いも、ササ茶がトモモ美味しかった。

などであった。

開催までの準備は大変だったが、多くの方々の協力を得て、初の試みのイベントが成功したことは本当に良かった。これから計画する行事の励みにもなりスタッフ一同喜んでい。ただ、当日のスタッフ人数が少し多すぎたのは今後の反省点であった。それはさておき、ご協力頂いた環境部会やその他の皆さん本当にありがとうございました。これからもこのようなイベントを定期的に行いますので、その節はよろしくお願い致します。

解説を聞くと見慣れた道も発見がいっぱいだ



# 国際部会

## ベトナムの旧正月

国6 - 国 黒田 宏

私が疎開していた田舎でも正月は旧暦を採用していた。

ことしは2月2日が旧暦の元旦で、ベトナム人は<テト>と称し、須磨にある外国人学校の1つマリスト・ブラザースの食堂でお祝いをした。やはり正月はどこの国でも同じで、大人は過去は過去として新しい年に向かって希望を膨らます機会と

なり、子供にとっては、疎開先の私もそうであったが、美味しい物が食べられる(ベトナムの子供にお年玉の楽しみがあるか否かは知らない)喜びが満ち溢れていた。

初めて<T E T>(スペルはベトナム人に教えて貰った)と言うベトナム人の正月を見たが、とにかく盛況で、司会のマイクの声搔き消すほどの大変な賑わいであった。最近では日本に滞在している男性が本国へ帰って結婚すべく女性を連れて帰ってきていると言う話も聞いた。

グループ“わ”から出演したマジ

ックの鮮やかな手さばきに皆が拍手喝采を送った。子供たちはそのマジックを嬉々として、また不思議そうに眺めていた。昨年はうしろから見た子供が種明かしをしてしまった、と言う和やかな話も聞いた。

グループ“わ”の出演は13時からと聞いていたので12時半頃には到着していたのだが、プログラムの関係で「南京玉簾」と「腹話術」はすでに終わっており、見物できなかったのは残念であった。



### 神戸市国民年金友の会

#### 入会のおすすめ

入会資格：満60歳以上の神戸市民の方で公的年金受給者または受給資格者とその配偶者。

年度会費：1,500円（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

入会方法：下記の友の会事務局にお電話でご連絡下さい。入会案内、会費振込用紙などを送付いたします。

申込受付：平成15年3月1日より

#### 会員特典

- 【1】友の会だより「しらぎく」の発行 【2】観劇会（有料） 【3】いもほり大会（有料）  
 【4】各種利用割引  
 しあわせの村温泉健康センター入浴料(10%引) しあわせの村宿泊館・たんぼの家・  
 野外活動センターあおぞら宿泊料(10%引) 天然ラジウム温泉太山寺「なでしこの湯」入浴料  
 (10%引)・宿泊料(10%引) 有馬ビューホテル別館日帰り温泉入浴料(400円引)  
 舞子ピア宿泊料(10%引) 神戸文化ホール・神戸市演奏協会自主公演(10%引) 六甲  
 有馬ロープウェー、新神戸ロープウェー、まやケーブル、ロープウェー各利用料(20%引)  
 市内映画館(高齢者並料金) 提携ボウリング場のボウリング料金(1ゲームにつき通常  
 料金から50円引) 提携旅行社のバック旅行(指定コース3%引)  
 \*事情により変更する場合があります。詳しくは会員証送付の際にお知らせします。  
 【5】趣味の教室(会員による自主運営)「染のフラワー教室」「はり絵教室」「俳句教室」  
 「日本画教室」を会員が催しています。

#### お問合せ

こうべ市民福祉振興協会  
 神戸市国民年金友の会事務局  
 電話〇七八七四二一八一九三

# 親子であつまれ

## 昔あそび塾

—きっとあるよ たのしいあそびが—

**日時** 2003年3月9日(日)  
午後1時～3時

**場所** 神戸市シルバーカレッジ  
(北区 しかわせの村内)

### 昔あそびの内容

1. お手玉
2. マジック
3. 紙しばい
4. 竹うま
5. 竹とんぼ
6. 紙ひこうき
7. こままわし
8. あやとり
9. 折り紙
10. 折り染め
11. まりつき

### カ—

— Ⅲ  
300円  
(先着100Ⅲ)



参加費は無料です。  
ご自由にご参加ください。

## 自然あそび塾

—自然を観察して春を食べよう—

**日時** 2003年3月15日(土)  
午前10時～午後3時

**場所** しかわせの村  
野外活動センター「あおぞら」  
テントキャンプ場

春の草には 食べられるものが  
いっぱいあるよ  
みんなで観察しながら  
さがしましょう  
どんな野草が食べられるのかな?  
どんな料理にして  
食べるかは当日のお楽しみ

餅つきもするよ  
草もち作るよ

**対象**：小学生と保護者  
**費用**：無 料  
**定員**：25名(先着順)



**FAXでお申込ください。**

FAX 078-743-8103

**主催** 神戸市シルバーカレッジ 社会還元センター グループ“わ”  
お問合せは . 743-8101 (火・金のみ在室)

この催しは (財)長寿社会開発センターの助成金でおこないます

# 兵庫区会 教育応援団

福3 - 兵 山中 敏夫

ことしの1・17行事に私の校区内の湊川中学から、震災当時の体験とその後のボランティア活動について話をしてほしいとの依頼を受けました。当日は私の主宰する会下山ラジオ体操会の例年続けている5時46分の追悼行事に引きついで、8時20分から朝礼と校長先生の訓話の後、講堂に集まった約400人の生徒に5時46分の瞬間の体験と、湊川中学における避難生活の状況、そしてその後のボランティア活動について約40分の話をしました。今の中学3年生は、当時小学1年生で、記憶はあるものの詳しいことはよくわかっていないので、皆肯いて静かに聞いて貰いました。ただ悲惨な状況、恐怖を与える話はフラッシュバックを引き起こすのでやめてほしい前もって注意を受けました。

話の後で校長先生から「今日の少子高齢、核家族社会の進行する中で、3世代はもちろん、親子2世代、兄弟姉妹、地域での子供集団のふれあいが希薄になっている。加えて父親の仕事、母親の有職化等による家族のすれ違い生活の恒常化、離婚の増加等々で生じている子供たちの個の生活化があり、家庭教育の消滅、肉親愛の枯渇による情操、常識、道徳の低下、さらに非行化への芽が育ちつつあることに対する教育関係者の危機感が深まりつつある。このようなとき、学校教育だけではなし得ない、より深くより広い知識や情操を養い、鍛えていくために、地域の方々の力を借りたい。ついては本校の教育応援団を結成したいので、協力、参加を頂きたい」との要請を受けました。

大変時宜を得た良い企画であるので、即応諾、登録しました。その具体的な活動は、

- ・地域の歴史（地理、伝説）
- ・震災当時の状況
- ・健康について
- ・家族について

- ・仕事（職業）について
  - ・人権、思いやりについて
  - ・人生体験について
  - ・趣味について
  - ・元気の出る話
- 等々について「総合的な学習の時間」の時間割の中でボランティアとして参加すること、学校の各種行事や、授業参観に参加すること、年1回全登録者の総会を開いて、1年間の報告と次年度の企画に対して検討することなどです。
- この企画は、すでに兵庫県「トライアル・ウィーク」や、一部地域

で実施されています。震災後、学校が地域コミュニティのセンター的役割を担う必要が論議され、すでに地域の防災センターとして始動しています。またNHKの「ようこそ先輩、課外授業」による効果も高く評価されています。この試みは追々と広がって行くのではないかと思います。

このような要請があったときは、“わ”に結集する私たちにとって最も相応しい出番ではないかと思います。

平成15年1月 日

神戸市立湊川中学校  
校長 三宅 克重

関係各位

**湊川中教育の応援団になって下さい!**

いつも本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。  
本校は現在、1年2クラス、2年3クラス、3年2クラス、仲良し学級1クラス、計8クラス、在籍206人の小規模の学校です。生徒達は、人懐っこく、素直で、友達思いです。保護者の方々地域の方々に温かく見守られ、支えられて毎日の学校生活を送っています。授業をはじめ、部活動や地域に出向くための諸活動にも数多くしっかりと取り組んでいます。

しかしながら、もっと知識を吸収しようとか、自分の視野をもっと広げ鍛えて伸びていこうとかの意識がやや弱いかも思いを感じています。本校の課題の一つであろうと認識しています。

生徒達にこれから求められていることは、情報化の進展と共に、人に頼り過ぎず、自ら考え、逞しく生きていく力を持つことです。学校では、教科での学習を基本としながら多くの活動を通して、さらに力強い生徒を育てていくつもりです。

つきましては、上記のような教育方針を進めるに当たり、保護者の皆様や、地域の皆様のお力をお貸しいただきたいと思っております。原則としてボランティアとして、例えば下記のような領域で御願いできませんでしょうか。内容としては、生徒へのお話や簡単な実演や体験等です。申し出のあった方々は、登録をさせていただきます。後日ご連絡させていただきます。右の登録票に記入頂き、FAXでご送付下さい。どうかよろしくお願ひいたします。

記

1. 登録期限：平成15年3月 日
2. 登録先：神戸市兵庫区松本通り1-1-1  
神戸市立湊川中学校(TEL. 078-521-4874)  
(FAX 078-521-4875)
3. 問合せ先：湊川中学校 教頭 尾崎 幸夫
4. 支援していただきたい内容(例)
 

★ 地域の歴史	★ 震災当時の話	★ 健康について
★ 家庭について	★ 仕事について	★ 人権・思いやりについて
★ 体験話	★ 趣味について	★ その他元気な話など
5. 具体的な活動について
  - ★ 平成15年度より実施
  - ★ 主に「総合的な学習の時間」を活用して御願いをします。
  - ★ 学校の各種行事や授業参観などを通して本校を見ていただきます。
  - ★ 年に1回、学校の現状や活動について総会を開き説明します。

**朗読ボランティアのお願い**

芦屋で朗読ボランティアをしておりました「小槌の会」がこの7月で解散します。それまでの一部を請合って朗読とダビング、発送をすることになり、5、6名で活動をするようになりますが、テープ300本をダビングしなくてはなりません。活動場所は明石コープセンターか、垂水区の神陵台になるかと思いますが、時間がある方のご協力をお願いいたします。問合せ先：782-5565 長谷川 文子(音6-い)

## ボランティア報告

## 兵庫福祉健康フェアに参加

「やさしさと思いやりのまち兵庫の推進」のテーマで第5回ふれあい兵庫「福祉・健康フェア」が兵庫区役所の主催で2002年10月26日に開催されました。

毎回フェアのボランティアとして参加している三島会長（福祉1）ほか10名のパンジーの会メンバーは定刻前に、会場のJR兵庫駅南側キャナルタウン本部テント前に集合したが、すでに店舗用のテントが整然と張られ、それぞれ意匠をこらしたディスプレイに、軽食調理の前準備にと早ばやと取りかかっており、場内全体に活気が満ちあふれていた。

定刻11時に開会のアナウンスが流れ、すでに場内にいた来場者はいっせいにフリーマーケットでの品定め、またおでんなどの軽食を求め



て会場は一気に賑やかになった。

パンジーの会メンバーは場内警備と、ステージ係の二手に分かれてお手伝いを開始した。場内警備班は場内整理と、ステージのプログラム入りチラシの配布を終日行い、一方ステージ班は地元自治会婦人方の日本舞踊、勇壮な和太鼓など次々とプログラムが進行するたびに、舞台の準備と後片付けを時間に追われながら繰返し、16時まで汗を流した。

来場者は若年者から高齢者まで平均的な来場者で大盛況であった。パンジーの会メンバーにとってきょうのお手伝いは年齢的に少しキツかったが、参加した全員が来年もまた元気でお手伝いできるのを、今から楽しみにしている。

## 兵庫パンジーの会新年懇親会開催

恒例の新年懇親会が2003年1月15日に1期生から、今春卒業の7期生まで48名が参加して兵庫区荒田地域福祉センターで賑やかに行われました。開会にあたりパンジーの会三島会長の新年挨拶があり、参加者の自己紹介のあと井内さん（美工1）の発声で乾杯、懇親会に入り楽しい語らいと、笑い声で一気に雰囲気



が盛り上がりました。その間に杉原さん（福祉3）によるマジックのパフォーマンスあり、またピンゴゲームで全員に景品が渡る趣向などもあり、楽しいひと時を過ごしました。

締めくくりは宮城さん（音文2）の発声で全員「大きな古時計」などの大合唱でなごりを惜しみながらの散会となりました。

## ボランティア報告

## 地域交流バザーのお手伝い

寒さがそろそろ身にしみる2002年11月23日第7回キャナル地域交流バザーが「自立センターひょうご」で開かれました。JR兵庫駅南側のキャナルタウンに位置する同センターの利用者と、この地域で生



活されている方々が、交流バザーを通じて親睦と理解を深めるのを目的に毎年開催されてきました。

今回は神戸市シルバーカレッジ卒業以来、毎週欠かさずこの地域でボランティア活動を続けておられる宮城さん（音文2）の呼びかけでパンジーの会メンバー数名がお手伝いに参加することになりました。

お手伝いは飲み物コーナーの販売をセンターの利用者とパンジーのメンバーがペアになって行いました。開店直後、大声での呼び込みにも売行きは低調で少々心配しましたが、気温の上昇とともに売上も勢いづきほっと一息つきました。

午後はそれぞれペアになったセンターの利用者と食事を共にしたり、バザーで買物を楽しんだり充実した時間を過ごしました。定刻午後2時に終了の合図があり後片付けを始めましたが、受持ちの飲み物を含め軽食のたこ焼なども完売で一同やれやれでした。センターの利用者の方々は表情も明るく、気さくで、むしろパンジーのメンバーのほうが楽しく1日を過ごさせてもらったと云うのが実感でした。



## 長田区会

ボランティア体験記

### 滝谷ホーム

国2-長 たなか よしお

1月14日20:00から同15日8:00までの宿泊勤務である。場所は市バス150系統「滝山町」下車、歩いてすぐのところである。(編注:10ページの略図参照)標高はどのくらいかわからないが、瀬戸内海が眺められ、気温は平地に比べて、若干低い。

午後2時から夜8時までは、賄いの女性の方が一人で、明朝の食事の準備までして夜9時前のバスで西鈴蘭台まで帰られる。その後明朝8時までは軽度身障者4人に夜勤者(筆者)が加わって5人で過ごすことになる。

4人中1人は正月に自宅へ帰ってそのまま休みであり、結局当夜は私を加えて宿泊していたものは4人であった。

これは身障者の自立の訓練のために、新しくできた施設であると聞く。居住者の年齢は30才から50才くらいまでに自分には見えだが、その中2人は、しあわせの村の作業場へ、1人は東灘の公園墓地へ作業に出かける。出勤は7時から8時まででそれぞれ時間が違う。中に1人、なかなか出てゆくのが億劫な人がいるらしいが、この人はちょうど今日が休みであった。

夕方は食事後で1人をのぞいて後の2人は部屋にこもっていたので姿

を見せず、1人だけが机の前に座して9時過ぎまで起きていた。

朝は7時に出かける2人が自分と一緒に朝食をしたが、それぞれあと片づけをして流し台もきれいにしてお発した。1時間遅れで出発する1人はその後1人で食事をして食堂に掃除機をかけて出かけた。後は規則通り戸じまりをして8時過ぎに私は退場したが、総体に自分自身ですべてを片づけて、出て行くよういい習慣をもっているように思われた。

グループ“わ”以外に学生アルバイトが交替にきているようで、それらの記録を見ると宿泊者同士が口争いをしたこともあったらしいが、初めてのことでそういうトラブルは私にはわからなかった。しかししばらくこの業務を続けるといろいろな人間関係が見えてくるであろう。

しかし基本的に彼らの自立を助けるという目的は忘れてはならない。

場所は付近一帯に駐車場があって民家がなく、特に夜間はいざというときには不便で用心が悪いということは、賄いにきておられる女性の方も言っておられたが、これは確かにそうであった。



## 垂水区会



矢田神戸市長(右)と中島さん

### “わ”相談役中島洋吉さん 神戸市環境功労賞を受賞

中島さんは、平成10年3月にオープンした垂水区恋人岬のピオトープの造成期より参加し、その管理組織の立ち上げに努力され、シルバーカレッジ在学中より福田川にかかわり、その成果を冊子「福田川を歩こう」に纏め、流域の小学校を中心にその冊子を配布すると共に児童達に自然の大切さを伝える等、長年の環境保全および啓発活動が評価され、その功績に対し、昨年12月14日(土)垂水区レバンテホールで「神戸エコ市民フェスタ」が行われた際に、多くの市民が参加する中、矢田神戸市長より神戸市環境功労賞が手渡されました。

### 有馬湯殿館&工房館ボランティア募集

現在有馬湯殿館において、毎週金、土、日、祝にガイドボランティアをAM10:00~16:00まで二人で行っています(一人1000円)。ローテーションを組み、月1回ぐらいの予定で行っています。

4月に工房館(元保養所)がオープンの予定で工事が進んでいます。完成後、工房館も湯殿館と同じように二人づつ、詰めるようになります。

工房館は毎週土、日、月曜日3日間となります。

現行のメンバーでは参加日の都合上無理が生じますのでボランティアをして頂ける方を募集しますので、ご参加頂ける方は至急ご連絡ください。問合せ、連絡はグループ“わ”事務局大坪迄 078-743-8101



# ティータイト

## 最近の活動から

食5一文 辻 郁子

少し前、久々に新聞のコラムで評論家犬養道子氏の文に接しました。厳しい評論かと読み始めたところ、ご自身が介護を受けられた体験から、誰にでも温かくお世話する日本の若者に希望を持つという内容があり、ほっとしました。

「人間同士は常に対等、憐れまれて喜ぶ人はいない。」とも。

そして、幼いころの思い出として次のようなことが述べられていました。

年末になるとお母さんと一緒におみやげを持って近くの施設を訪れた。おみやげというのは、犬養さんが大事にしていた人形やおもちゃ。どうして...と思ったとき、お母さんは「人の役に立ちたいと思うなら、自分も少しは痛い目にあわないと」と言われたそうです。

さて私たちはささやかなボランティアをさせて頂いています。人形劇を通してのふれ合いは楽しいものです。自分も少しは痛い目に...。ウーン、そんな思いはあまりなく訪問しているなぁ。

そんなことを考えていたとき、この前出会った学園の子供たちのことを思い出しました。学園の催しのお誕生会に呼ばれたときのことです。多動なお子さんが多いと聞いていたのでどうなることやと心配していました。舞台裏に来たり、人形を持って行ったりするのは？

行ってみると、子供たちの安全の

ために各部屋は引っかけの鍵がされていた。なかなか大変だなあと思いましたが、入った途端、そこに流れる温かい空気を感じました。先生方もお誕生会に参加されている保護者の方も皆明るいんです。

さあ、お誕生会が始まりました。なかなか静かになりません。思い思いに動き回っています。でも園長先生はじめ皆さんにここに。

続いて人形劇です。

おむすびころりん(わいわいがやがや)。むかしむかし(わいわいがやがや)。

ちゃんと聞こえたかなあ。楽しんで頂けかなあ。そんな思いで帰りました。

その後しばらくして園長先生からお手紙が届きました。明るさの源がありました。

「子どもたちは、それぞれの楽しみ方をしていました」

この言葉に感動しました。

「みんな違って、みんないい」...近ごろよく目にする金子みすゞさんの詩の一節ですが、本当に私たちは違いを認めて人を尊重しているのでしょうか。ボランティアって学びの場だなぁとつくづく思います。

犬養氏の「自分も少しは痛い目に...」という言葉にも深い意味があるようです。

人形劇を観せるではなく、観て頂くと謙虚さを忘れず、これからも仲間と共に温もりと優しさとユーモアを届けていきたいと思えます。

園長先生からお便りを頂いたのが嬉しく、思わず書いてしまいました。

## ほたる座の皆様

神戸市立のぼら学園長

三宅 芳宏

### 人形劇公演について (お礼)

先日は、のぼら学園誕生会におきまして、楽しい人形劇をしていただき、ありがとうございました。

子どもたちは、引き込まれるように集中して見ている子もいれば、人形や舞台装置が気になって見にいったり、落ち着いて見ることが出来ない子もいましたが、それぞれの楽しみ方をしていました。普段、友達とよくけんかしたり、走りまわりますが、本当に真剣な表情で見入り、自分から手拍子する場面も見られて、職員はまた新しい発見をしました。またある子は、劇を見た夕方、お母さんに「おむすび作って」と頼んで、ヘルメットを穴に見立てて「おむすびころりんすつとんとん」と楽しそうに遊んでいたとの報告もあり、とても印象深かったようです。一人ひとりの子どもたちの中に楽しい場面や歌がきくと残っていることと思います。

また、ほたる座のメンバーの方々のはつらつとした姿に、子どもたちだけでなく学園職員も元気をいただき、心暖まるひとときを持つことが出来ました。

今後とも、よろしくお願ひ致します。

楽しい公演を本当にありがとうございました。

## よろしければどうぞ

シルバーカレッジで3年間学んだ後ボランティア活動に励んでおられる“わ”の皆さまは、いまさら？と思われるかも知れませんが、これまでなんとなくやってきたけど、自分のしていることの基本と意義をしっかり理解しようという人にぴったりの本が事務局に1冊寄贈されました。ボランティア情報研究会編 学習研究社刊「熟年だからボランティ

ア！」です。堀田力さんによる「まず肩書きを外そう」から始まって高齢者福祉、リサイクルショップ、観光ガイド、IT 技術など専門性を生かした活動、海外日本語ボランティアまで、さまざまなNPO やボランティア団体の情報、活動の様子が詳しくわかります。お貸ししますので、事務局に立ち寄られた際にお気軽にお声を掛けてください。



## 2 近郊ウォーキング

## 丹生山

生4-北 廣川 幾雄

神戸電鉄箕谷駅前から市バス衝原行きに乗って丹生神社前で下車すると、そこが丹生山の登山口である。石の鳥居を過ぎ、真っ直ぐ行くと右側に丹生宝庫がある。丹生神社の神宝が納めてあるという。ここに山頂まで2.8kmの標識がある。やがて道の左右に丁石(一丁ごとに距離を示した標識)が立っている。廿四丁から始まっているので数えながら歩くと足がはかどる。十二丁のところに地藏様が祀られている。これを左に曲がると表参道、真っ直ぐ行くと裏参道である。裏参道の方がすこし楽なようであるが、あと1キロだから表から行こう。山頂に着くと

ノぞらえ、王城鎮護を願って山上に山王日吉神社を祀った。中世には明要寺は大いに栄え、多数の僧兵をかかえ軍事上の一大拠点となっていた。戦国時代には三木の別所氏と結び、秀吉の三木城攻めに際しては大いに抵抗した。花隈、再度山、谷上、丹生山、三木という補給ルートがあったため、三木城はなかなか落ちなかったといわれる。ついにしびれを切らした秀吉は丹生山の焼き打ちを命じ、1579年明要寺は消失してしまう。数千の僧俗が焼殺されたが、その時殺された稚児たちをのちに村人が葬ったのが稚児墓山である。明要寺はのちに秀吉によって再興されたが、明治の廃仏棄釈によって廃絶され、日吉神社が丹生神社と改められたという。



✓ 無人の丹生神社があり、ここから播州平野が一目で見渡せる。

丹生というから昔はここで丹(水銀の鉱石、辰砂ともいう)が採れたのであろう。神功皇后がここで丹を採ったといわれている。明治以前はここに明要寺という大きな寺があった。伝説では百済の王子が仏教を伝えるため日本にやってきて、明石に上陸しここに丹生山明要寺を建立したという。平安末期に福原遷都を行った平清盛はこの山を比叡山にな

✓ 帰路は今来た道に戻ってもいいが、縦走路にしたがって帝釈山まで行くのも良い。帝釈山から下りたところが428号線で、だらだらの下り道を1時間はど歩くと谷寺口のバス停である。



## 募集！ 滝谷ホーム

## お泊りボランティア

滝谷ホームは社会福祉法人新緑福祉会が知的障害者生活援助事業の一つとして開設しているグループホームです。この施設で夜の8時から翌朝8時まで宿泊するボランティアを募っています。朝食と謝礼が支給されます。場所は下のマップをご覧ください。すでに“わ”から多くの方が行っております。長田区の田中さんの体験記が8ページにありますから参考にしてください。

応じてくださる方は“わ”事務局へ電話(743-8101、毎週火、金曜日)されるか、group-wa@portnet.ne.jpへメールをお送りください。



## 編集後記

1月発行を安易に2月に延ばしたのが浅はかでした。紙面ができて、さて印刷機の予約をしようと思ったら、この時期、3年生のレポート印刷で全然入る余地がないことが分かり、愕然。どうしてこれが読者に届いたかは、ご想像に任せますが、来年は忙しくても1月発行を守らなければと反省しています。

制作中の“わ”のホームページにも本紙を載せることになり、写真がカラーになる予定です。(サン)

情報ぎゃらりーのお手伝いを始めて今号で3回目になります。情報の氾濫している昨今、会員方に読んで貰って、楽しくなるような記事がないものが腐心いたしております。次号の編集には新に7期生が参加するでしょう。楽しい記事も一緒にこないかな。(TS)